

第1問

課題文によれば、ヒトゲノムの解読が完了したことにより、受精卵を遺伝子操作して親が望むような素質をもったデザイナー・ベビーを作り出すことが技術的には可能になった。また、遺伝学の技術が競技スポーツ界において乱用されると、遺伝子ドーピング問題が現実化する恐れがある。

私がおもうに、遺伝子ドーピングが恐れられている理由は、現行のドーピング検査では対応できないという点にあり、金メダリストをデザインすることに倫理的な問題があるのは、親の個人的な欲望によって子どもの人権を侵害することになるからである。

私自身は、遺伝子ドーピングにもデザイナー・ベビーにも反対である。たとえば、遺伝子ドーピングはフェアプレーの精神に反するだけでなく、それによって競技成績を伸ばし検査にもひっかからなかったとしても、その成績が自分自身の血のにじむようなトレーニングの成果なのか遺伝子ドーピングのおかげなのかわからないのでは、選手自身は虚しいだろう。

デザイナー・ベビーに関しても、遺伝子操作技術によって自分の子どもを優秀なスポーツ選手にしたいという親の望みは、子どもの人権や意思を無視した反倫理的なものである。たとえば、遺伝子操作技術を用いて生まれた子どもが、親の思惑どおりのスポーツエリートとして成長できなかったらどうなるだろうか。そのとき、親が子どもにつらく当たったり、子育てを放棄するという問題が生じるだろう。子どもが、一体どんな思いを抱いて人生を送るのか想像に難くない。

以上見てきたように、われわれ人間は倫理的に未熟な存在である。遺伝子操作技術の乱用による犠牲者を少しでも減らすために、現状に応じた法による規制を検討すべきである。(701字)

第2問

スポーツにおける競技力は、「個人」においては選手自身の体力・精神力に最も大きく関係する。しかし、個人競技の場合でも、トレーニング時の「チーム」仲間との切磋琢磨や励まし合い、試合時の「チーム」が一丸となった支援体制が結果を大きく左右する可能性がある。まして、団体競技の場合は、トレーニング時はもちろん試合時にも、「チーム」の中での意思の疎通や連携プレーが競技力の主要な部分を占め、結果につながってくる。(200字)

フェアプレーとは、スポーツ競技の中で、ルールに従って公平かつ安全に正々堂々と全力を尽くすことである。もしフェアプレーの精神がなかったら、スポーツ競技はライバルをだましたり蹴落とししたり相手の弱みにつけこんだりするような、卑怯さを競うだけの戦いになってしまう。自らの心身を健やかに鍛えるべきスポーツにおいては、勝敗にこだわること以上にフェアプレーは重要なものであり、フェアプレーからしか得られない喜びがある。(202字)